



ジャガー・ルクルトが、キム・ウビンを迎え ソウルでサウンドメーカー展を開幕

チャイム機構を搭載した時計の豊かな伝統とスイス人アーティスト、
ザイムーンに特別に依頼した作品を展示

ジャガー・ルクルトによるサウンドメーカー展が、6月15日火曜日、ソウルのDDP（東大門デザインプラザ）でフレンド・オブ・メゾンであるキム・ウビンを迎えて開幕しました。

このサウンドメーカー展は、ジャガー・ルクルトのチャイム機構を搭載した時計の独特で豊かな伝統を掘り下げ、本拠地であるジュウ渓谷にオマージュを捧げたものであり、ジャガー・ルクルトのクリエイティブで文化的な世界をビジターの皆さまに体験していただくことができます。

この展示会では、ジャガー・ルクルトのチャイム機構を搭載した傑作時計の中でも、初期の作品や歴史的に重要な作品を厳選し、これまでに一般公開されたことがない多数の文書やアーカイブ資料と共に展示しています。このツアーは、ジャガー・ルクルト独自の歴史的アイテム、創業者のアントワーヌ・ルクルトとその父親が作った「オルゴール」からスタートします。これは、ジャガー・ルクルトのチャイム機構を搭載したタイムピースの始まりとなったアイテムでした。ビジターの皆さまがこの展示会を順次ご覧いただくと、懐中時計からミニッツリピーターを搭載した腕時計、メモボックス、そしてメティエ・ラル工房®の特別なアイテムまで、技術的スキルと芸術的表現の両方の進化を楽しんでいただけます。

この展示会の中心には、今回韓国で初公開となるジャガー・ルクルトから依頼を受けたスイスの現代美術家ザイムーンによる新しい「音響彫刻」インスタレーションが設置されています。今回の魅力的な作品では、ザイムーンはマニファクチュールや周囲の自然の中にあり、ジャガー・ルクルトの精神に内在するものとしての音の世界を表現しています。

ザイムーンは、作品にシンプルな素材やジャガー・ルクルトの時計を構成する小さなDCモーター、細い電線、MDFパネル、金属ディスクなどを含むリサイクルの工業部品を利用して、従来の彫刻、動きや音の概念を新たに定義し、これを見る人に感覚的な体験をもたらす超越的な世界を作り出しています。



新しいフレンド・オブ・メゾンであり、高い評価を得ている俳優のキム・ウビンが、この展示会のオープニング祝賀会およびプレスミーティングに参加しました。「この展示会を通じて、私はジャガー・ルクルトの伝統を新しい方法で感じ、体験することができました。また、その美しいタイムピースには心底驚かされました」と彼は展示会を見学した後にコメントしています。

予約制で一般公開されるこのジャガー・ルクルトのサウンドメーカー展は、ソウルのデザインとファッションの中心地である DDP（東大門デザインプラザ）で開催中です。チケットは、こちら <http://www.thesoundmakerseoul.com> から予約が可能です。展示会の各ゾーンでは、ビジターの皆さまの質問にお答えするツアーガイドがおり、また、フルガイド付きツアーもご利用いただけます。ウェブサイトからお申込みください。展示会は7月4日まで開催。開催時間は、午前10時から午後7時までとなります。

ジャガー・ルクルト : HOME OF FINE WATCHMAKING SINCE 1833

ジャガー・ルクルトは、メゾンの本拠地をジュウ渓谷の静寂な地に置いていることが、ホームとして、その場所への独特の帰属意識を高めています。まさにこの地こそ、ジュラ山脈の比類なき景色に着想を得ながら、果てることのない「内なる炎」に導かれ、ジャガー・ルクルトの精神が生まれる場所なのです。すべての作業がひとつ屋根の下で行われているこのマニュファクチュールでは、時計職人、エンジニア、デザイナー、芸術職人が一丸となって働き、時計に息吹を吹き込みます。揺るぎないエネルギーと、メゾンに属する一人ひとりのコミットメントを日々促している創造の精神が原動力となり、控えめな洗練さと技術的な創造性を培っています。この精神が、1833年以来、1,200以上のキャリバーを生み出すパワーの源であり続け、そして、ジャガー・ルクルトをウォッチメーカーの中のウォッチメーカーへと導いているのです。

jaeger-lecoultre.com